

第28回京都府文化賞受賞者紹介

	氏名	受賞者紹介	
特別功労賞	いむら ひろお 井村 裕夫	医学者	内科学、特に内分泌学、糖尿病学の臨床と研究に従事し、これらの研究により国内外の多くの賞を受賞。京都をはじめ日本の学術の発展、科学技術の振興、教育などの広い分野で活躍。
	ひびの こうほう 日比野 光鳳	書家	「かな書」一筋に、伝統に立脚しつつも清澄にして品格のある作風を追求。日本や中国の筆法を研究し、創造性豊かで京都らしい優雅な書風を確立。
	ひろた のりかず 廣田 隆一	能楽師	金剛流の特徴と言われる華麗さの中にも堅実で重厚な芸風を持つ。若手の育成に尽力するなど、今日の能楽界の振興に大きく寄与。
	やまおり てつお 山折 哲雄	宗教学者	日本人の精神構造や文化風土について、鋭い分析を続けるとともに、宗教学や思想史の知識をもとに古代から現代までの日本を相対的に捉え、幅広いジャンルにわたる評論活動が続ける。
	財団法人 ぎおんまつりやまほこれんごうかい 祇園祭山鉾連合会	文化振興	大正12年創設、平成4年公益法人化。昨年、ユネスコ無形文化遺産に登録された「祇園祭山鉾行事」を円滑に実施するとともに、各山鉾の保存・継承を図り、京都府における文化財の保存に寄与することを目的に活動。
功労賞	あがわ ぶんさい 小川 文齋	陶芸家	五代目小川文齋。様々な活動を通して陶芸に息づく伝統を語り続けるとともに、後進の育成や作家団体においてリーダーシップを発揮。
	かわむら えつこ 川村 悦子	洋画家	素材に頼らず洋画・日本画の枠をも超えた、精緻な描写に基づく秩序立った具象表現を旨としながら、その向こうにある絵画の本質を追究。
	くいせこ はくじゅ 杭迫 柏樹	書家	幅広い視野に立つ研究と独自の書風を追求。書の魅力を美しさや難しさを含めいろいろな角度から捉え、幅広く紹介するなど筆と墨によるメッセージを送り続ける。
	つばき のぼる 椿 昇	現代美術家	ハイテクや環境破壊、戦争、グローバリズムといった世界の現実と向き合うスケールの大きな表現で、日本を代表する現代美術家の一人として注目を集めている。
	ふくだ きじゅう 福田 喜重	刺繍工芸家	「刺繍」の人間国宝。数々の古典研究を基礎に幅広い研鑽の結果、刺繍のみにとられない総合的に調和のとれた作品表現を可能とする等独自の世界を確立。
	ほそみ かがく 細見 華岳	織物作家	「綴織」の人間国宝。指先に細心の注意をはらい精魂込めた作業から生み出された繊細で優美な作品は、多くの人々を魅了。
	まきの のぞみ マキノ ノゾミ	劇作家・演出家	劇作家・演出家として関西をはじめとする全国演劇シーンの最前線で活躍。数々の受賞に輝く中において、観る人の心を本当に豊かにできる芝居を模索し続ける。
	わたなべ じょう 渡邊 穰	ヴァイオリニスト	確かなテクニックと豊かな表現力を備えた演奏で聴衆を魅了。京都市交響楽団のコンサートマスターを務め、これからの京都の音楽界をリードする一人として活躍が期待される。
奨励賞	きたがわ ななえ 喜多川 七重	染作家	「命」をテーマに、蠟染と型染を用いた染作品を発表。しっかりとした技術に基づき、旧来の染色の概念を超える構成やマチエール(素材感)の強さが作品の魅力。
	くろかわ ゆう 黒川 侑	ヴァイオリン奏者	若手の登竜門として知られる日本音楽コンクールにおいて当時最年少の16歳で第1位に輝いた実力派。現在は、オーストリア・ウィーン音楽大学に留学中。
	ひのだ たかし 日野田 崇	美術家	リズムカルで有機的な作品のフォルム、愛嬌と皮肉が混じり合うデフォルメされたストーリーのないグラフィック等、陶芸による造形表現の可能性を探究。
	もりみ とみひこ 森見 登美彦	小説家	多くの作品で、京都を舞台に身の回りの何気ない日常から、主人公の幻想的な冒険を描く。独特の古風な文体と、空想と現実を織り交ぜた独自のストーリー展開で多くの共感者を獲得。
	よしむら こ 吉村 古ゆう	日本舞踊家 (上方舞)	上方舞吉村流四世家元・吉村雄輝に弟子入。流儀の伝統を踏まえつつ、形にとらわれない精神的なものを大事にしながら、海外公演や他流派との共演など幅広く活躍。

(氏名五十音順)